

学 位 論 文 要 旨

研究題目

The advanced lung cancer inflammation index predicts outcomes in patients with Crohn' s disease after surgical resection

(クロウン病における術前 Advanced lung cancer inflammation index の臨床的意義)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻 器官・代謝制御系

炎症性腸疾患学 (指導教授 池内 浩基)

氏 名 楠 蔵人

クローン病 (CD) は初回手術後の再手術率は高率であることから、初回手術後の再燃・再発予防を目的とした術後寛解維持療法が重要となることが知られている。CD の術後寛解維持療法としては、栄養療法や薬物療法が推奨されているが、治療抵抗性の症例は累積再手術率も高い。術後治療の選択肢が増加しつつあるにもかかわらず、各症例に応じた適切な術後寛解維持療法選択の指標がないのが現状である。今回我々は CD における累積手術再発に対する predictive marker として、栄養学的指標の有用性を検討した。2006 年 2 月から 2015 年 12 月までに三重大学附属病院で CD に対して腸管切除を伴う手術を施行し 5 年以上 follow up した 100 例を対象に、術前の栄養学的指標との相関に対し解析を行った。代表的な栄養学的指標 (albumin, total protein (alb), body mass index (BMI), neutrophil to lymphocyte ratio (NLR), Advanced lung cancer inflammation index (ALI), intramuscular adipose tissue content, psoas muscle index, prognostic nutritional index) を用いて Receiver Operating Characteristic curve (ROC) 解析で比較し、最も累積再手術予測能が高い指標を選択し、臨床学的因子との関連や手術的再発 (術後合併症による再手術を除く) に対する predictive marker としての有用性を検討した。患者は初発時平均年齢 26.3 歳で、男性 73 人、女性 27 人であった。手術再発率との ROC 解析では ALI (BMI×alb/NLR) が最も Area under the curve が高値であった (Sensitivity:53%, Specificity:86%, AUC:0.71)。累積再手術予測に対する至適 cut-off 値を用い解析すると、臨床学的因子との検討においては性別、モントリオール分類 (A1/A2/A3, B2/B3, L1/L3)、喫煙、手術歴等では有意差は認めなかったが、ALI 低値群は肛門病変が有意に多いという結果であった (p=0.02)。また手術再発率に関しては多変量解析において ALI 低値群は独立予後不良因子だった (HR=3.37, 95%CI 1.38-10.12, p=0.006)。同一 cut-off 値を用い独立外部コホートである兵庫医科大学病院での症例 (169 例; 男性 125 人 女性 44 人) を用い同様の検討を行い、同様の結果を確認した (HR=3.69, 95%CI 1.4-12.7, p=0.007)。CD において術前 ALI score の測定は再発のハイリスク群同定の有用な predictive marker であり、術後寛解維持療法選択の一助となる可能性が示唆された。